

令和元年(2019年)11月22日
第1回「佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会」

高校改革
～夢に挑戦する学び～
実施方針 概要説明

長野県教育委員会

「高校改革～夢に挑戦する学び～」のアウトライン

社会の激変への対応

**新たな学び
推進**

(学びの質の充実)

少子化への対応

**学びの環境
整備**(学びの基盤を整備)

(再編・整備計画)

「高校改革」2本の柱

資料1 参照

長野県教育委員会

すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現をめざして

新たな学びの推進

1 すべての高校が、これからの時代に必要とされる力を生徒に育み新たな学びを実現します。

- (1) 「探究的な学び」の推進
 - 「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「主体性」を持って多様な人々と協働的に学ぶ態度、応用・学びの推進
- (2) 各校の学びを体系的に示す「3つの方針」の策定と運用
 - 3つの方針をすべての県立高校で策定
 - 「生徒育成方針」
 - ・卒業までに生徒にどのような力をつけるのかを示す。
 - 「教育課程編成・実施方針」
 - ・学校全体として教育活動をどのように展開するのかを示す。
 - 「生徒募集方針」
 - ・入学を希望する生徒へのメッセージとして、どのような生徒の入学を待っているか、どのような学校でどのような学びができるかを示す。
 - 「生徒育成方針」の実効性を検証するフィードバックシステム

再編・整備計画

4 さらなる少子化の進行に的確に対応します。

- (1) 都市部（近郊圏域）に集約
 - 小規模校を統合し、教育効果・投資効果を最大化
 - 新しい時代にふさわしい新しい学校を再編・整備
- (2) 中山間地（学びの場の確保が必要）
 - 魅力ある学びの場の創設と確保、地域と協働して最大限の努力

5 多様な学びの場を全県に適切に配置します。

- (1) 配置の基本的な考え方
 - 地域全体及び県全体の高校の将来像を総合的に検討
- (2) 校種ごとの配置の考え方
 - 普通科校 定時制高校 旧12通学区を基本に配置
 - 専門科校 旧12通学区を基本に、より広域でも配置
 - 総合学科高校 4通学区を基本に配置
 - 多部門制 単位制高校 4通学区を基本に配置

少子化への対応

資料2 参照

長野県の中学校卒業生数(予測)

令和元年
(2019年度)

19,630名

5,956名減少

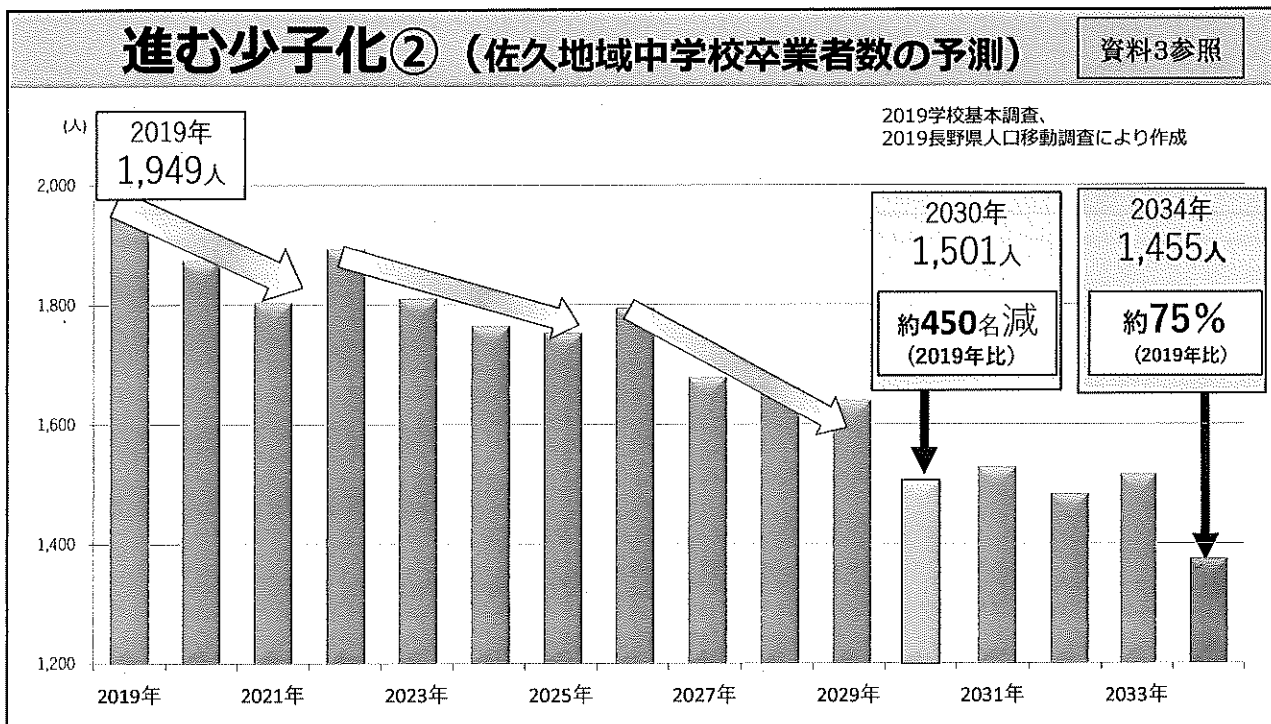
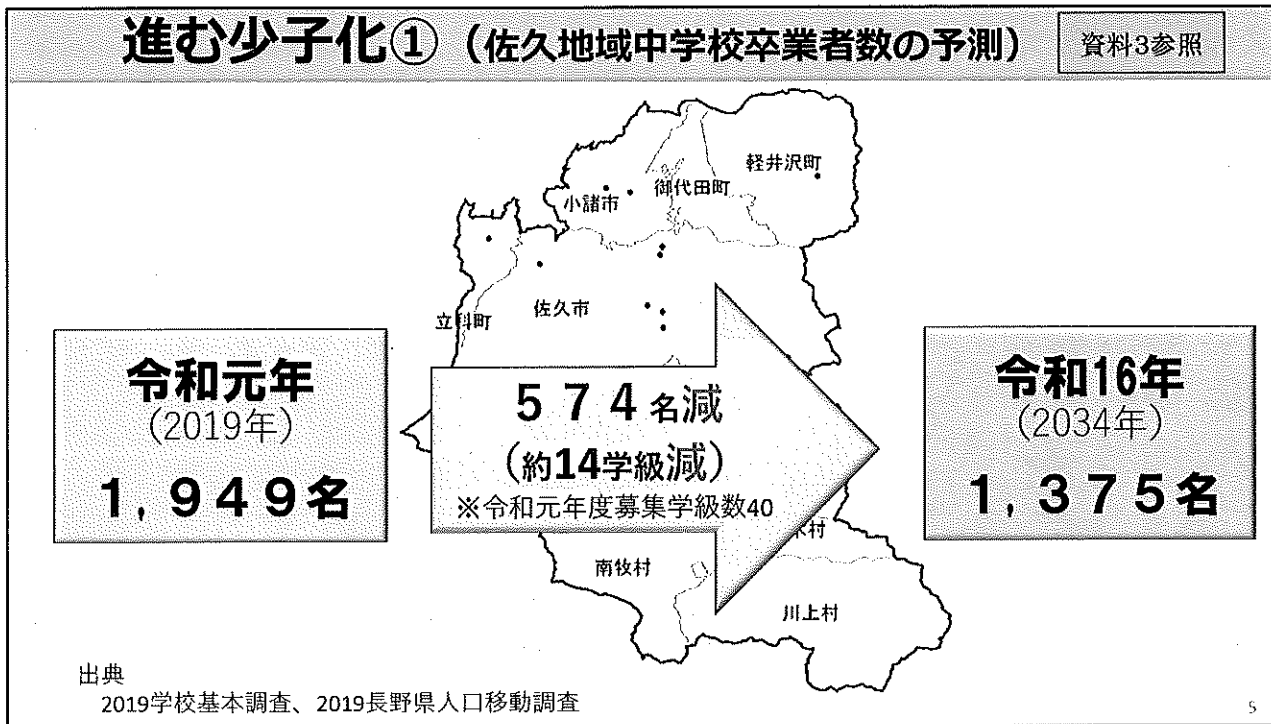
<約 149学級分>

令和16年
(2034年度)

13,674名

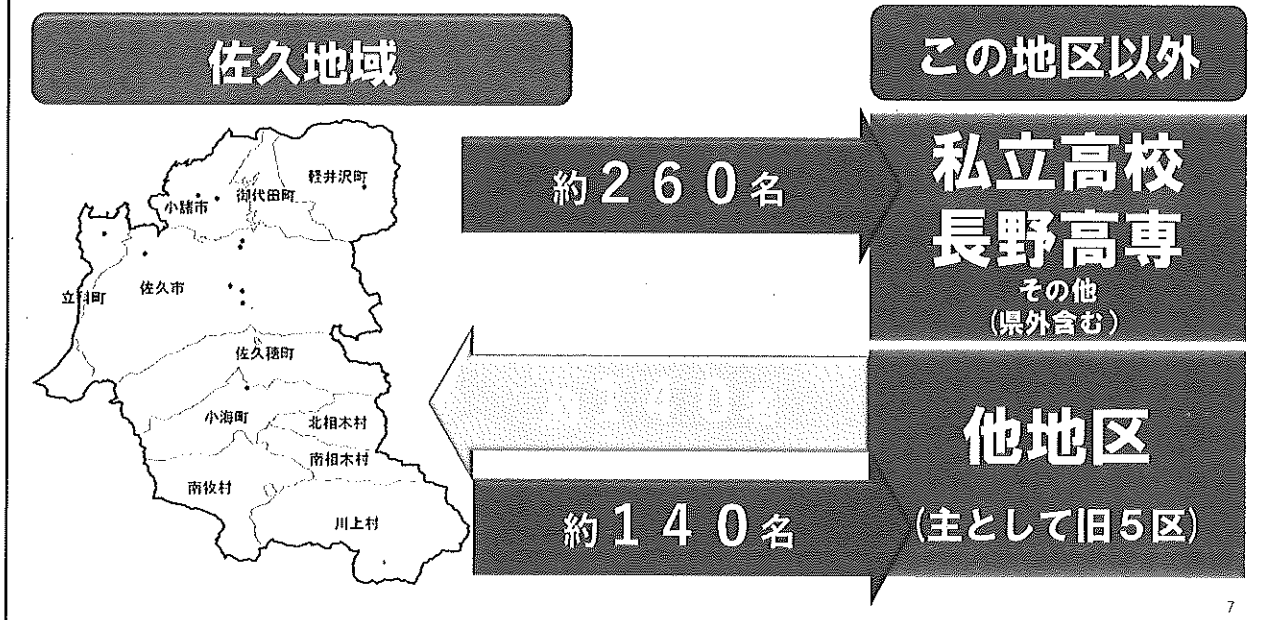
適正規模・配置の検討

新たな
高校づくり



公立高校の規模に影響をもたらす要素

「実施方針」p40、41参照



7

“都市部にも中山間地にも高校が存立し、
すべての高校で「新たな社会を創造する力」を育むために”
「都市部存立校」と「中山間地存立校」の考え方を導入



「実施方針」p60参照

「都市部存立校」の再編基準について

「実施方針」 p61参照

	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
都市部 存立 普通校	6学級以上	在籍生徒数 520人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止
都市部 存立 専門校	3学級以上	在籍生徒数 280人以下、2年連続 ① 他校との統合 ② 募集停止

「中山間地存立校」の再編基準について

「実施方針」 p61参照

	望ましい規模 (募集学級数)	再編対象
中山間地 存立校	3学級以上	在籍生徒数 120人以下、もしくは、 在籍生徒数 160人以下、かつ、 卒業生の半数以上が入学している 中学校がない状態が、2年連続 ① 他校との統合 ② 地域キャンパス化 ③ 中山間地存立特定校の指定 ④ 募集停止

10

佐久地域の状況

「実施方針」 p60参照

都市部存立普通校

小諸高校（普4 音1） 岩村田高校（普5）
野沢北高校（普4 理数1） 野沢南高校（普5）

都市部存立専門校

小諸商業高校（商4）
佐久平総合技術高校（農3 工2 総2）

中山間地存立校

蓼科高校（2） 軽井沢高校（3） 小海高校（3）

※（ ）は2020年度募集学級数

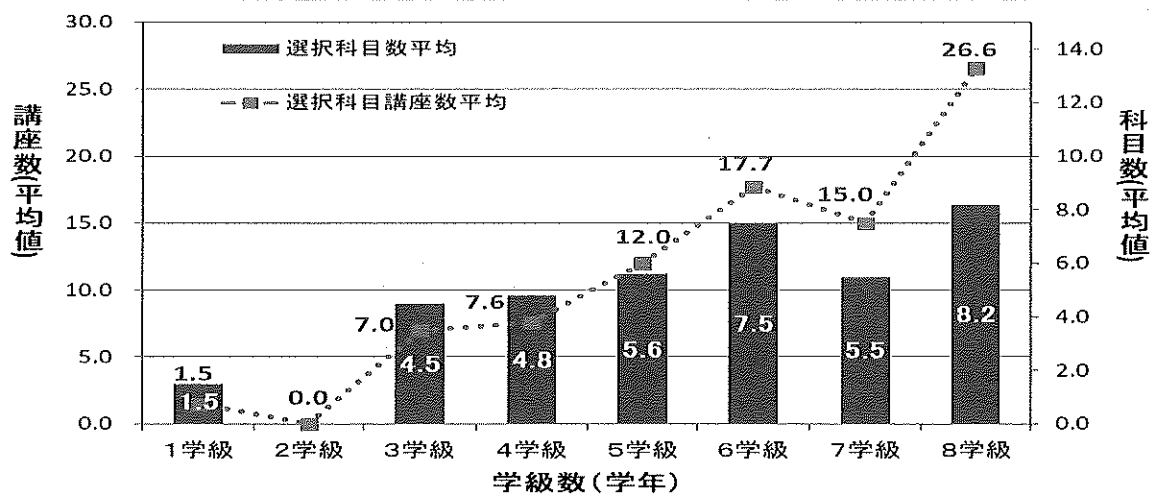
佐久地域の再編の方向性

【再編計画の方向】

- 校数が多く、全体の学校規模が縮小している中で、
地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- この地区の今後の少子化の進行を考えると
再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- 小諸市と佐久市に適正数を考慮しながら
規模の大きさを活かした都市部存立校を配置するとともに
- 学びの保障の観点も踏まえながら
中山間地存立校を配置していくことが考えられる。

「実施方針」 p41参照

学級規模による選択科目数

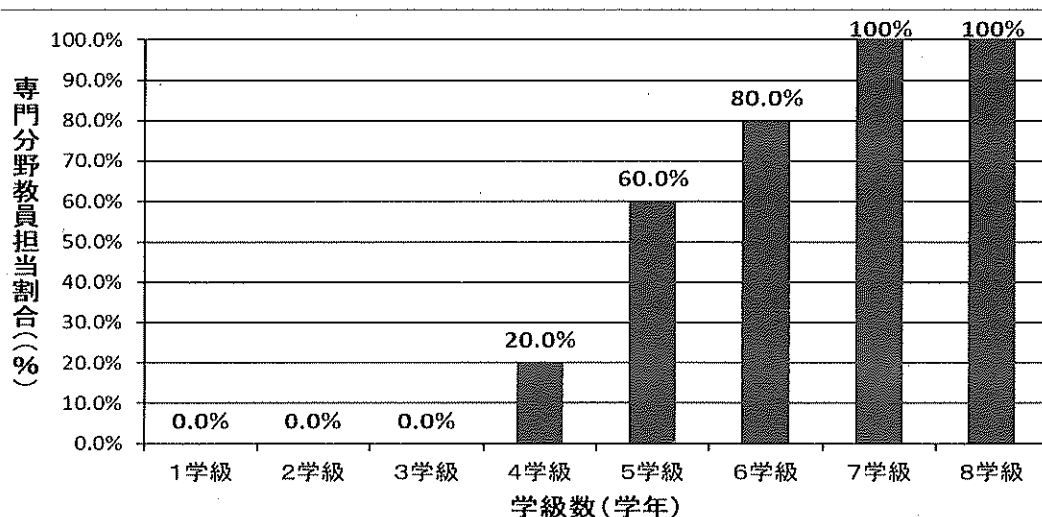


第1図 学級数(学年)と選択科目数・講座数

注)平成28年度調査

高校では、クラスは40人規模だが、多くの選択科目は、40人以下で展開

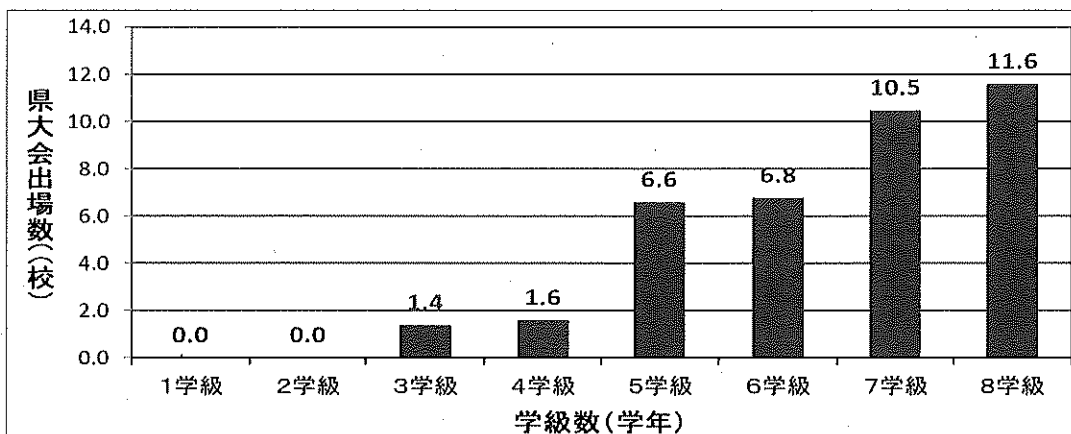
専門性の確保



第2図 理科(全日制普通科)において4科目(物理・化学・生物・地学)の授業を専門分野の教員が担当している割合

注)非常勤講師を含むすべての教員対象(平成28年度調査)

クラブ活動



第3図 学校規模別の平成28年度長野県総合体育大会
(県大会)出場

注)4地区大会で団体競技を開催している種目を対象(柔道、剣道、ソフトテニス、
テニス、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、ソフトボール、卓球、
バドミントン、弓道、サッカー)

中山間地校の武器

学習面	・ 個の状況に応じたきめ細やかな指導と支援
生活面	・ 生徒相互の人間関係の深まり ・ 異学年間の縦の交流 ・ 寄り添ったきめ細やかな指導
学校運営面	・ 教職員間の意思疎通が図りやすい ・ 学校が一体となって活動しやすい ・ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい
その他	・ 保護者や地域社会と連携が図りやすい

参考資料：中央教育審議会初等中等教育分科会の会議資料

「高校改革 ～夢に挑戦する学び～」のスケジュール

想定時期	ブ	ロ	セ	ス
2017年11月	「県立高校「学びの改革 実施方針」策定に向けて」			
2018年3月	「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針（案）」			
9月	「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」			
2019年9月	すべての地区で「高校の将来像を考える地域の協議会」を設置完了			
2020年3月	「再編整備計画（一次分）」 策定			
2021年3月	「再編整備計画」 確定			
				「実施方針」 p63参照
2030年3月	長野県の高次教育が変わる 長野県が変わる			

論 点

未来の創り手となる子どもたちのために

公立高校に
どのような魅力_を
求めるか

どのような「学び」の場_が
必要か